

シニアがスマホを習得した手段 男性「自分で解決」女性「人に教えてもらった」

～スマホを習得した手段を分析した結果、男女で大きく異なった～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

- 調査結果1 : シニアのスマホ習得手段
- 調査結果2 : スマホ習得手段と関係する事項
- 調査結果3 : 性年代別にみたスマホ習得手段の理由
- 調査結果4 : 所有時期とスマホ習得手段の理由の変化

■ 調査結果

1ーシニアのスマホ習得手段「自力中心」「他力中心」半々に分かれる

2017年1月時点でシニアの36%がスマホを所有していたが、どのような手段を使って、スマホを使えるようになったか、その習得方法を調査した。その結果、最も重視した手段は「購入店に聞いた」「取扱説明書を読んだ」次いで、「手探りだけ」「別居家族・同居家族に聞いた」と続いた。これを「自力中心」「他力中心」に大別すると、大よそ半々に分かれた(図1)。なお、複数回答でみると、「取扱説明書」「参考書」の合計が、約4割となりこの世代の特徴である、紙媒体を重視する傾向が、スマホにおいても垣間見える。

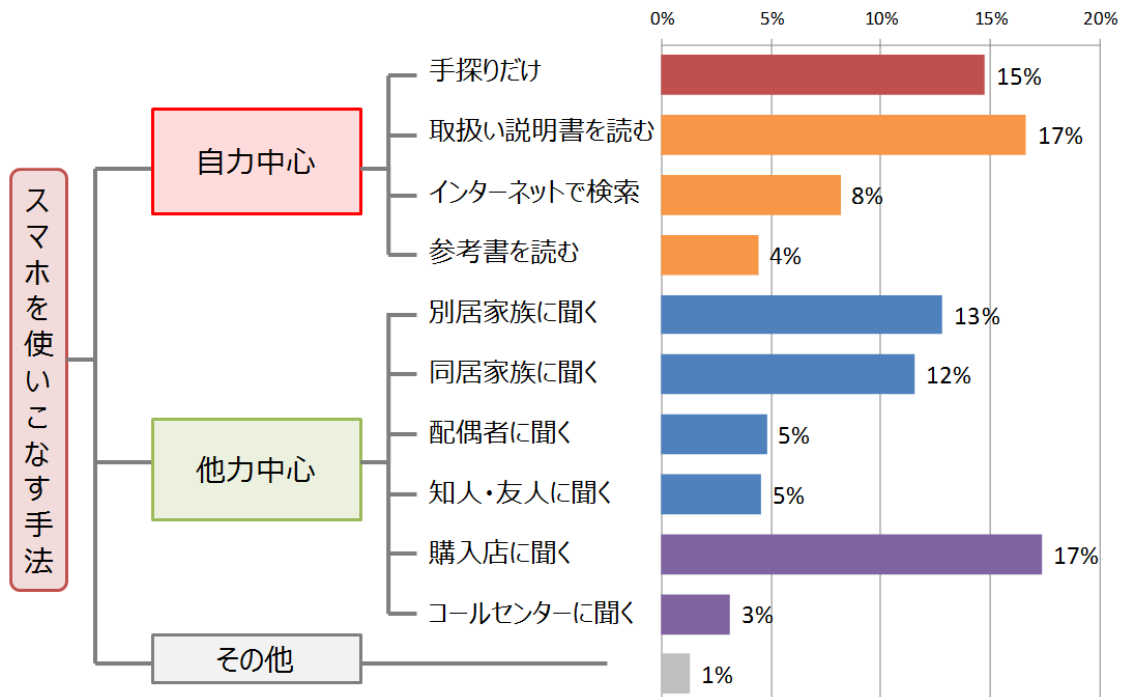


図1 スマホの習得方法

2 ——— スマホを習得する手段と関連が最も強いのは「性別」

それでは何が関係して「自力中心」「他力中心」に分かれたか、統計的手法で分析した結果、最も強く関係していたのは「性別」であった（図2）。



図2 スマホ習得方法との関連

※1) 全体と合わせるか、否か 2) 直ぐに行動に移すか、否か

3 ——— 男性は「取扱説明書・手探り」女性は「人に聞く」

性別に所有したきっかけを見ると、違いは明らかで男性は「取扱説明書」「手探り」といった「自力中心」、女性は「別居家族」「購入店」など人に聞く「他力中心」の構成比が高い。（図3）。男性の場合、自力の割合が多い結果となったが、本当は子や友人、購入店などに聞いてみたかったが、聞けなかった結果の可能性もある。さらに、現在の60・70代の特徴である、子世代に迷惑をかけたくないと考える傾向が、スマホの習得にも関係している場合も考えられる。

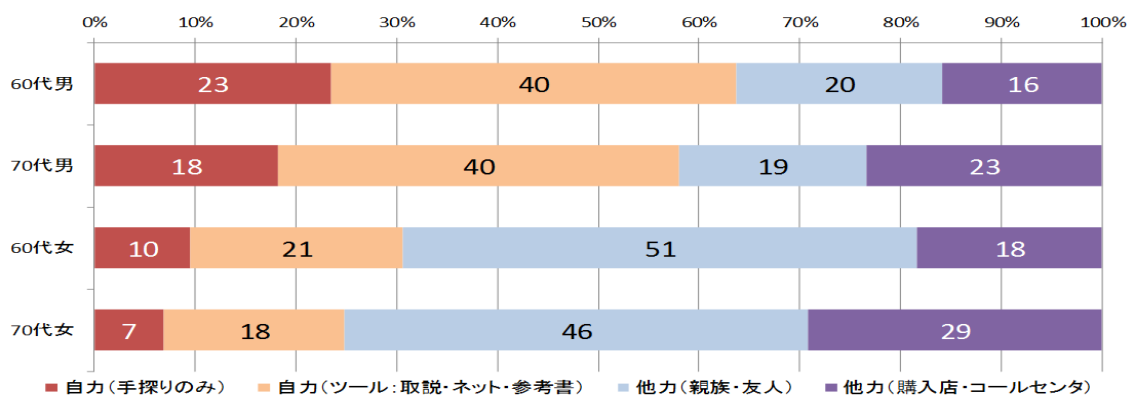


図3 性年代別スマホ取得理由

4 ——— 購入時期により、スマホ習得手段が変わる

所有した時期と習得方法を、時系列的観点からみると、「自力中心」が下がり、「他力中心」が増えている（図4）。これはレポートNo12で報告した通り、シニアの周りにも徐々にスマホを持つ人が増え、その影響で移行した人が増えているのが要因として考えられる。

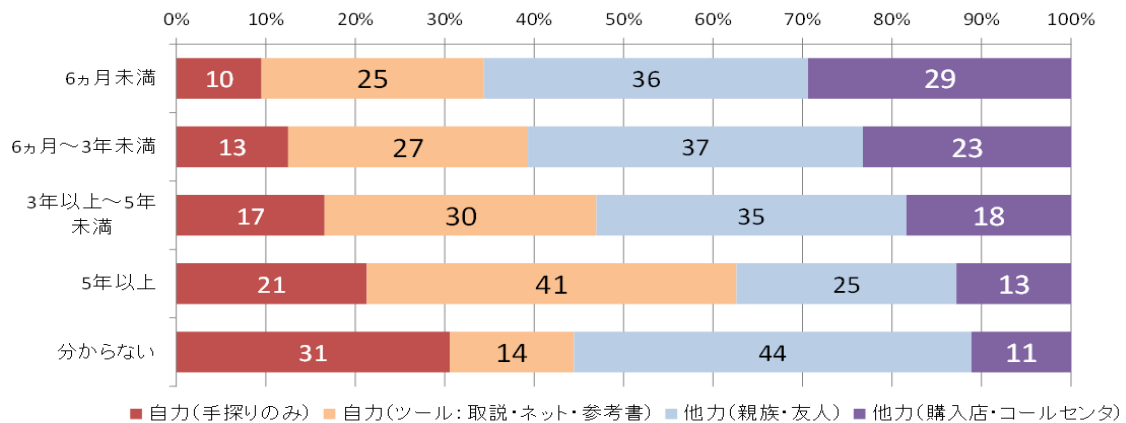


図4 購入時期とスマホ習得方法

■調査概要 (調査名 シニア調査 訪問留置調査)

調査時期 : 2017年3月 調査対象 : 全国、60～79歳男女
 標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住エリアで割付2,936サンプル回収

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。
 株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com